

皆様、どのようにお過ごしでしょうか。外出自粛が続き、ストレスを感じている子どもたちも増えてきていると思います。それは保護者の皆様も同様かと思います。先日、新聞を読んでいたら「教育、保護者に丸投げ?」という記事がありました。国や県、横浜市も学校も、いろいろな方法で家庭学習が進められるように配慮しているのですが、難しい問題です。私たち教師にしてみれば耳の痛い見出しでした。その記事の中で「保護者だと感情的になってしまい、うまく教えられない。子どもも甘えてしまってやろうとしない。」といった内容がありました。確かに、自分のことを振り返ってみると(一応、教職でありながら)なかなか、自分の子どもにはうまく教えられなかった経験があります。親子と教師・児童の関係は「大人と子ども」という関係では似ている部分もありますが、立場の点では違う部分が大きいのかもしれません。

政府が5月21日に緊急事態宣言の解除か、継続かの検討をするようですが、神奈川県は判断基準となる数値をこえているようで、どうなるか、心配です。解除になったとしても5月いっぱい臨時休業が続きます。また、解除にならなかった場合は5月28日に再検討するとのこと。それまでに収束してくれることを願うばかりです。

今、9月始業という案が検討されていますが、今年からというのではなく、「段階的に」という案が浮上しており、本年度在籍している子どもたちにとっては余計に不安にならないでしょうか。特に、6年生は来年の3月に卒業できるのかという大きな問題があります。

現在、職員室では教育課程の見直しを行っています。3月からの未履修部分や4月以降の学習内容の見直しを行い、6月再開という想定で準備を進めています。6月に学校が再開されたとしても、すぐに通常授業とはいかず、分散登校などの「3密」をさける工夫が必要となります。また、体育や音楽の歌唱などはソーシャルディスタンスを保ちながら、うまく進めていく必要があります。新学習指導要領の目指す「主体的で対話的な深い学び」で言われる「対話的」な学習をするためにグループで顔を突き合わせて話し合いをする、ということは当分無理でしょう。残された授業日数・時間数、そして、学習内容の精選、質の向上を考えると難しい課題ばかりですが、本校教職員の叡智を結集して乗り越えたいと思います。

このところの報道を見ると「人間ってすごいなあ」と思うことばかりです。営業時間を短縮せざるを得ない飲食店はテイクアウトを始める。それを支援するように、先払いでお金を払って、あとから食事ができるシステムを作る。マスクがなければ、シャツだって靴下だって加工してしまう。今まで浸透していなかった Web 会議やテレワークのシステムを作り上げる。私たちにとってもピンチこそ、最大のチャンスかもしれません。がんばります!

さて、ここでお願いがあります。おうちにいる子どもたちから担任の先生でも、専科の先生でも、給食の栄養士さんや調理員さん、用務員さん、誰でもけっこうです。「今、こんなこと頑張っています」とか「こんなことで困っています」とか。いろいろなメッセージをメールでください。保護者のみなさま、代筆(打?)、お願いします。(なお、一部のメッセージを本校ホームページに掲載するかもしれません。その際、お名前は記載しません。)

宛先 kawakamikitashou@gmail.com